

別添 7-5 (第 3 の 2 関係)

畜産GAP拡大推進加速化交付金の事業成果及び評価報告書（令和3年度）

都道府県名 北海道

目的	目標値				事業実績		備考
	目標値	実績	達成度	評価	事業費実績 (円)	うち交付金相当 額 (円)	
I 日本版畜産 G A P 指導活動 の推進	90 経営体	135 経営体	150%	A	6, 095, 060	5, 235, 060	
II 日本版畜産 G A P 等認証の 取得拡大	10 経営体	10 経営体	100%	A	1, 168, 800	1, 062, 546	
<p>事業の成果</p> <p><日本版畜産G A P 指導活動の推進></p> <p>○ G A P 指導の中心的な役割を担う J A 営農指導員や農業改良普及指導員を対象に育成した畜産G A P 指導員が、農業者のレベルに応じて指導をすることにより、目標を超える135名の農業者が畜産G A P を実践する（「G A P をする」）ことができた。</p> <p><日本版畜産G A P 等認証の取得拡大></p> <p>○ 各地域に配置した畜産G A P 指導員等が農業者団体や農業教育機関と連携しながら指導することにより、1 団体（8 経営体）及び2 農業教育機関が認証を取得した。</p>							
<p>都道府県による評価</p> <p>○ 畜産G A P 指導員の育成に向けた基礎研修会や地域関係者に対する研修会の開催を通じて、道内の指導体制を構築するとともに、畜産G A P 指導員等が、農業者の実践レベルに応じた指導を行うことにより、目標より多くの農業者がG A P を実践する（「G A P をする」）ことができた。</p> <p>また、地域のG A P 指導員が積極的に指導支援を実施することにより、認証取得目指した団体認証1 件（8 経営体）と2 農業教育機関が畜産G A P 認証を取得する（「G A P をとる」）ことができた。</p>							
<p>国による評価</p> <p>・ I 日本版畜産G A P 指導活動の推進において、畜産G A P を実践する農業者の数は目標 90 名に対し実績は 135 名となっており、目標を達成している。また、令和3 年度はJ G A P 家畜・畜産物指導員基礎研修により、新たに 26 名の畜産G A P 指導員を育成し、年度末現在の指導員数は 63 名となったほか、新たな取り組みとしてJ G A P 家畜・畜産物団体認証研修により 21 名の内部監査員を育成しており、G A P の指導体制は着実に構築されつつある。</p> <p>・ II 日本版畜産G A P 等認証の取得拡大において、目標 10 経営体に対し実績は 10 経営体（新規団体認証取得 1 団体（8 経営体）、及び農業教育機関 2 経営体（新規取得 1、更新 1））となっており目標を達成している。</p> <p>以上のことから、I、II とも目標値に対しては100%以上の実績となっており、目標は達成されたと判断する。なお、重点地域においてさらに新規団体認証を取得するなどの課題は残るものの、研修会や現地指導により畜産G A P を経営の中で実践する農業者は増加しており、今後も畜産G A P の認証取得経営体が着実に増加することが期待される。</p>							